

医療とコミュニケーション

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、生物薬学講座神経科学分野、教養教育センター		
担当教員	藤澤 美穂 講師、駒野 宏人 教授、塩谷 昌弘 非常勤講師、平野 順子 非常勤講師、大関 信隆 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

医療人にとって必要な情報伝達の数々についてさまざまなアクティブラーニングやボディワークを通じて学ぶ。あらゆるコミュニケーションのベースとなる「みること」「きくこと」の多様性について知り、障がいを持った人々との情報交換の有り方も含め医療現場で必要なコミュニケーションの種類とその心構えについて理解できるようにする。

情報を集め、それを分類・理解してしっかりと受け止め、そして、正しく発信するための基本的なことがらを学習する。論理的にわかりやすい表現で自分の考えを伝えるための技術を修得する。また、上級学年において医療面接の手法を学んでいくための準備として、コーチングという対話の仕方について理解を深める。さらに、脳の情報伝達経路と筋肉反射の関係を体感するためのエクササイズを行う。

・教育成果（アウトカム）

コミュニケーションの多様性と可能性の実態に関する講義内容を整理し、医療人にとって必要なコミュニケーションの種類とそれぞれのコミュニケーションの仕方の留意点を認識する。さまざまなコミュニケーションを実際に行うことによって、コミュニケーションの仕方の違いによる情報伝達内容の変化を認知し、わかりやすく論理的な表現を習慣化する。（ディプロマポリシー：2、6）

・到達目標（SBO）

- 1.医療人にとって必要なコミュニケーションについて基本的なことがらを説明することができる。
- 2.正しくわかりやすく情報を伝達することができる。
- 3.論理的な日本語表現で自分の考えを述べるができる。
- 4.相手の自己肯定感を上げるコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができる。
- 5.障がい者のコミュニケーションの実態について理解することができる。

・ 講義日程
【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/30	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>宮澤賢治「永訣の朝」を読む</p> <p>1. 詩「永訣の朝」に関する対話を通じて、詩に対する理解を深めることができる。</p> <p>2. ワークのなかで、他者との対話の内容を適切に記録することができる。</p> <p>事前学習：「対話」についてインターネットなどで調べる。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。</p>
5/7	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング1：コーチングの概要【グループワーク】</p> <p>1. コーチングとティーチングの違いを説明できる。</p> <p>2. コーチングの価値と可能性を理解できる。</p> <p>事前学習：「コーチング」についてインターネットなどで調べる。</p> <p>事後学習：講義内容を実践する。</p>
5/8	金	4	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>医療におけるさまざまなコミュニケーション【グループワーク】</p> <p>1. さまざまな現場や対象者（年齢、障がい等）とのコミュニケーションについて学び、その特徴を述べることができる</p> <p>2. 言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、その特徴を説明できる。</p> <p>事前学習：どのような医療現場があるか、インターネットで調べ、まとめる。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。ワークをふりかえる。</p>

5/11	月	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	<p>脳とからだの情報伝達を身体を動かすことによって体感する【体験型授業：言葉、考えがどのように身体に影響するかなどの体験をする】</p> <p>1.身体の感覚に意識を向け、身体感覚にきづくことができる。</p> <p>2.言葉や思考と筋肉の反応の関係を体感できる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：体験型授業内容を復習する。</p>
5/14	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング2：相手の話を聴く姿勢【グループワーク】</p> <p>1.傾聴することの重要性を理解できる。 2.傾聴の基本を実践できる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義内容を実践する。</p>
5/21	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング3：相手を認めるメッセージ【グループワーク】</p> <p>1.相手を認めることの重要性を理解できる。 2.自己肯定感を高めるメッセージを伝えることができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義内容を実践する。</p>
5/28	木	1	教養教育センター	平野 順子 非常勤講師	<p>コーチング4：相手の答えを引き出す質問【グループワーク】</p> <p>1.質問の種類を説明できる。 2.答えを引き出す質問をすることができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義内容を実践する。</p>

6/4	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>宮澤賢治「眼にて云ふ」を読む</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 詩「眼にて云ふ」に関する対話をして、非言語的コミュニケーションの在り方を説明できるようになる。 2. 対話を通して詩に触れることで、他者への理解を深めることができる。 <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
6/11	木	1	教養教育センター	大関 信隆 非常勤講師	<p>自閉症児（ASD）のコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ASDの言語理解や対人認知、その他の認識の特長について理解できる。 2. ASDと上手に関わり、安心して生活できる環境の作り方を提案できる。 <p>事前学習：前回までの講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
6/18	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>短評を書く</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短評を書くことを通して、自分の見解を他者に端的に説明することができるようになる。 2. 他者のメッセージから、様々な可能性を引き出すことができる。 <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
6/25	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>しぐさと読み聞かせ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 声としぐさを意識して、感情の機微を伝えることができる。 2. 他者の声やしぐさに注意して、細かなメッセージを受けとることができる。 <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。</p>

7/2	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>プレゼンテーション①準備【グループワーク】</p> <p>1. グループワークを通じて、プレゼンテーションを構想することができる。</p> <p>2. グループワークのなかで、自らの意見を述べることができる。</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
7/9	木	1	教養教育センター	塩谷 昌弘 非常勤講師	<p>プレゼンテーション②発表【グループワーク】</p> <p>1. グループで、適切なプレゼンテーションができる。</p> <p>2. プレゼンテーションに対して、質問や意見を述べるができる</p> <p>事前学習：前回の講義資料を復習する。 事後学習：講義資料を復習する。</p>
7/16	木	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>医療とコミュニケーションのまとめ【グループワーク】</p> <p>1.相手の立場にたったコミュニケーションとは何かを考えることで、医療人となる自分が今後身につけるべき態度・技能は何であるか、述べるができる。</p> <p>事前学習：前回までの講義資料を復習する。</p> <p>事後学習：WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。科目全体を復習し、医療人としてのコミュニケーションのあるべき姿について、自分なりの意見をまとめる。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタディ・ナビゲーション	人間科学科・附属図書館	岩手医科大学	2020

・成績評価方法

受講態度（20%）、ワークシート・レスポンスシート記載内容（30%）、確認テストの成績（10%）、レポート（40%）によって総合的に評価する。受講態度は作業への関わり、発表（プレゼンテーション）のための準備への関わり、発表での役割遂行等について、初回講義で示す「受講態度評価基準」に従い、SABCの4段階で評価する。ワークシート・レスポンスシート記載内容は、提出されたシートを対象とし、初回講義で示す「シート評価基準」に従い、SABCの4段階で評価する。

・特記事項・その他

本講義では毎回、さまざまなグループワークを取り入れたアクティブラーニングを行う。またコメントシート提出を求める回を設定する。
 グループワークの内容、コメントシートへ記載された内容、および提出物については、内容に応じて翌回の講義内でフィードバックをおこなう。
 WebClassでの確認テストを実施する回を設定する。結果はWebClassにてフィードバックする。
 コメントシートは評価の上、最終回に返却する。
 提示した課題の中から1題を選択してレポートを作成し、WebClassから提出することを求める。評価はWebClassからフィードバックする。
 各回講義に対する事前学習の時間は最低30分以上を要する。各回講義に対する事後学習の時間は最低30分以上を要する。
【事前学習・事後学習のポイント】
 事前学習：講義内容の確認をした上で、トピックに関連する事項をインターネットや図書館で検索し、問題点を抽出しておくこと。最低30分以上を要する。
 事後学習：講義資料を確認し、ワークでおこなった内容をふりかえり、自分なりにまとめておくこと。最低30分以上を要する。
 講義で身につけたさまざまなコミュニケーションの方法を、実生活や実習の現場で応用する。
 「脳とからだの情報伝達を身体を動かすことによって体感する」の回は体育館3階柔剣道場でグループワークを行いながら学習する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料の提示
講義	エルモ書画カメラ	1	講義資料の提示
講義	BD/DVD プレーヤー	1	講義資料の提示
講義	デスクトップPC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成

